

あなたに代わって研究します

林産試験場の開発した技術にさらに手を加えることで、企業等の技術・製品開発につながるものが基本です。対象は道内に生産設備を持ち、かつ研究に必要な人材および施設等を持たない企業・市町村・団体等です。

受託研究 (窓口：普及係)
前年度の

● 申し込み 9月末日まで

● 費用 有料

この制度は、研究設備などが不十分な企業の代わりに、林産試験場が行う研究です。この制度は、企業間競争が激しい現在、北海道の木材関係産業の振興を図るため、一層の技術支援を提供することを目的として制定され、平成2年度から実施されています。従来の技術指導や依頼試験の範ちゆうを越える、より企業の個々の条件を考えた研究を行います。経費は、こちらで算定した研究に必要な費用を依頼者に負担して頂きます。申込みは前年度の9月末日までです。

6年度のテーマと研究費は次のとおりです。

- ・エクステリア製品のデザイン開発 (シスコン・カムイ株式会社)
- ・固形防腐剤を埋め込んだ木製サッシの防腐性能の研究 (久保木工株式会社)
- ・フェノール樹脂含浸積層材の炭化条件および生成物の性質の把握 (株式会社ニッタクス)
- ・その他
- ・研究費 500,000～1,650,000円

利用者の声

シスコン・カムイ株式会社

企画室長 谷川良一氏

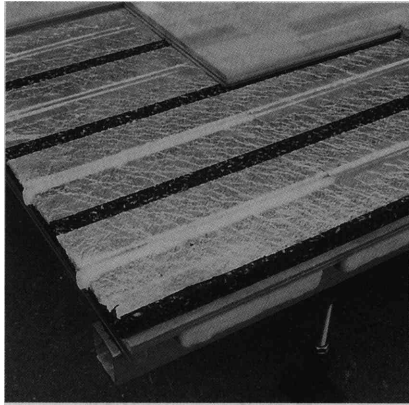
シスコン・カムイでは、これまで土木資材の販売および製品開発を主要な事業内容としていました。しかし、最近になって周囲景観に対する配慮

や地球環境問題などから、土木分野でも、素材に木材を用いた製品を扱う機会が多くなってきています。このような背景から、「カムイ・ポール」の製品シリーズを開発し、カラマツ材と鋼材とを木ネジやビスなどによって組み合わせたフェンス、あずまや、照明柱などのエクステリア分野への事業に着手しました。これらの製品は木材のもつ“温もり”や“柔らかさ”というイメージと、鋼材やコンクリートなどの異種材料によって耐久性、強度性能の向上を両立させています。いわゆる木材と異種材料の特性をそれぞれ活かしたハイブリット製品と言えるでしょう。

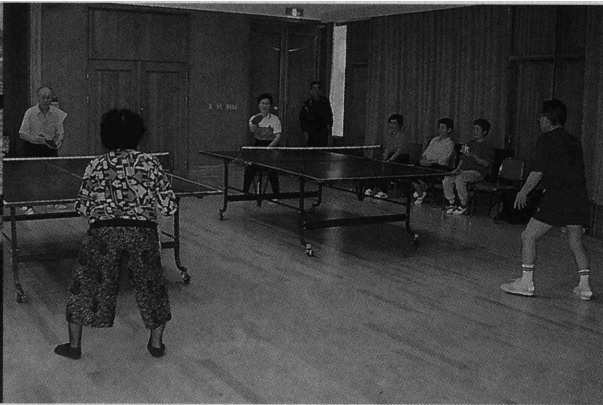
当社ではこのようにカラマツ材を使用したシリーズをさらに充実発展させたいと考えており、そのためにはメンテナンスの簡素化と、周囲環境との調和の2点が特に重要であると考えています。



ふくろうをモチーフとしたごみ箱



体育館の床暖房用
ゴムチップパネル



岩見沢高齢者福祉センター

そこで、木製エクステリアの設計や木材の加工技術について、実績のある林産試験場の受託研究制度を活用させていただき、ごみ箱と転落防止柵のデザイン開発を依頼しました。

この研究成果によって既製品と比較し、木材の鋼材への取り付け方法が一層簡素化され、しかも製作コストの低減、メンテナンスの容易さ、施工性などが飛躍的に向上しました。

ごみ箱の成果については、さっそく、釧路町の公園「絵本の里」に設置した製品に反映させることができました（写真）。また、転落防止柵についても当社の次世代の製品として今後の事業展開を図るために関連会社との具体的な打合せを行っているところです。

このように、受託研究制度によって大変有益な成果が得られ、当社の製品に確実に反映させることができました。

サンポット株式会社

取締役温水技術部長 三ツ谷弘毅氏

これまでの暖房機器メーカーから暖房システムメーカーへの脱皮を図るため、異業種のメーカーと協力して、新製品とその利用方法の開発研究を林産試験場に依頼しました。林産試験場へは、ゴムチップパネル・メーカーのサンフロア工業㈱、暖房機器メーカーのサンポット㈱、フローリング・

メーカーの日本木材工業㈱の3社からの受託研究「体育館床暖房構造とそのシステムの開発」を依頼しました。

ゴムチップパネルは、廃タイヤと建築廃木材の小片とイソシアネート系接着剤を混合し、熱圧で板状に成形されたりサイクル製品です。このゴムチップパネルがもつ弾力性や緩衝性が温水パイプの保護に最適であることに着目し、厳しい衝撃荷重を受ける体育館の床暖房という、今まで不可能とされていた新製品の開発を目標としました。

このためには、次の三課題について2年間研究を依頼しました。

課題1：体育館の床構造に対する日本工業規格に合格すること（競技性・安定性）

課題2：耐久性があること

課題3：床暖房に耐えられる体育館用フローリングを開発すること

林産試験場が異業種3社の要望を調整しながら研究開発した成果をもとに3社で商品化を図った結果、現在、「サンポット大規模温水床暖房システム」の商品名で体育館・幼稚園・福祉施設などに広く利用されています。この温水床暖房システムは、生涯スポーツ時代に対応した安全・快適な体育館暖房として、ますます普及するものと思われます。